令和７年度　教育事業（指導者等養成研修事業）

伊予の伝承文化を学び伝えるリーダー村（19 年目）

１　事業概要

大学生は、前半の３日間でリーダーシップや小学生への接し方、集団作りの技法、伝承文化等について学んだ。後半の日程では、小学生が参加する「子どもむかし生活体験村」の企画・運営を担当した。後半の３日間を小学生とともに過ごす中で、リーダーとしての資質を身に付け、活動を通して伝承文化を小学生に伝えることができた。

２　事業の目的（ねらい）

地域を大切にし、地域に根ざして活動するリーダーが求められている中で、愛媛の伝承文化を学び、先人の知恵と自然体験を融合した体験活動をすることで、地域を大切にしようとする心を育む。また、「子どもむかし生活体験村」を自ら計画し、運営することで、地域に根ざして活動しようとするリーダーを養成する。

３　企画のポイント

事前にオンラインで講義を受講することで日程を短縮して「子どもむかし生活体験村」の準備時間を確保すること、交流の家を宿泊場所とし、大洲市や西予市周辺地域の素材（自然・文化・人材等）を用いて伊予の伝承文化を学ぶことを企画のポイントとした。学びを深めるための体験活動として、芋炊き作りやうちわ作り、川遊び、史跡巡りに挑戦するプログラムを企画した。

４　主　　　催　独立行政法人国立青少年教育振興機構　国立大洲青少年交流の家
国立大学法人　愛媛大学

５　後　　　援　愛媛県教育委員会　大洲市教育委員会　西予市教育委員会

６　期　　　日　令和７年８月 23 日（土）～28 日（木）
※大学生を対象とした参加者講習会を７月 17 日（木）に実施
※「子どもむかし生活体験村」は８月 26 日（火）～28 日（木）に実施

７　場　　　所　国立大洲青少年交流の家　大洲市　西予市

８　参加人数　大学生 18 名
〔子どもむかし生活体験村　小学校４～６年生 30 名〕

９　講　　　師　山﨑　哲司　氏（元愛媛大学教授）日野　克博　氏（愛媛大学教授）
高橋　平徳　氏（愛媛大学准教授）
大本　敬久　氏（愛媛大学地域協働推進機構特定准教授）
木之本　義道　氏（瑞龍寺住職）
大洲地区広域消防事務組合消防署　署員
国立大洲青少年交流の家　職員

１０　日　　程

	7月17日(水)	8月23日（土）	8月24日（日）	8月25日（月）	8月26日（火）	8月27日（水）	8月28日（木）
6:30			起床・清掃	起床・清掃	起床・清掃	起床・清掃	起床・清掃
7:00			つどい	つどい	つどい	つどい	つどい
7:30			朝食	朝食	朝食	朝食	朝食
8:00			土居家へ移動		受入れ準備	土居家へ移動	退所準備
8:30				大洲史跡めぐり			退所点検
9:00		受付		・如法寺で座禅体験			大洲史跡めぐり
9:30		開村式(リーダー村)			開村式（体験村）		・如法寺で座禅体験
10:00		アイスブレイク	歴史体験活動（土居家）	生活体験村の準備	アイスブレイク	土居家見学	
10:30							
11:00		担当決め	昔遊び体験・川遊び準備		班のきまり・係決め	昔遊び	
11:30		うちわのり付け					
12:00		昼食	昼食（土居家食堂）	昼食	昼食	昼食（土居家　食堂）	昼食
12:30						神社・川へ移動	
13:00		普通救命講習Ⅰ	川遊び・見学	生活体験村の準備	きまり発表	昔遊び・川遊び	思い出発表準備
13:30					うちわ・竹とんぼ作り	（※雨天時は室内遊び）	
14:00		うちわ仕上げ・竹とんぼ作り					思い出発表
14:30	14:30～						閉村式(体験村)
15:00	ガイダンス						
15:30			着替え（センター）				閉村式（リーダー村）
16:00			交流の家へ移動			着替え(センター)	リフレクション
16:30					ベッドメイキング	交流の家へ移動	解散
17:00		つどい		つどい	つどい		
17:30		野外炊飯		夕食	野外炊飯		
18:00			夕食			夕食	
18:30				リフレクション			
19:00			生活体験村の準備			思い出発表準備	
19:30						リフレクション（小）	
20:00		ちょうちん行列	リフレクション	入浴	ちょうちん行列	入浴（小学生）	
20:30		リフレクション			入浴	リフレクション（大）	
21:00		入浴	入浴	就寝	リフレクション（小）	就寝準備（小学生）	
21:30					就寝準備・就寝（小）	入浴（学生）	
22:00		就寝	就寝		リフレクション（大）	就寝（小学生）	
22:30					就寝（大学生）	就寝（大学生）	

１１　活動内容

〈第１日目〉８月 23 日（土）

「アイスブレイク」　講師：国立大洲青少年交流の家　職員

「子どもむかし生活体験村」で行われる仲間づくりゲームでの指導方法を学んでもらうため、国立大洲青少年交流の家職員が講師となり、アイスブレイクを行った。活動が進むにつれて参加者の笑顔が増え、交流を深めることができた。体験後は、実際に子供たちに向けてどのようなアイスブレイクを行ったらいいのかをグループで考える時間が設けられ、参加者はより深い学びとなった。

「うちわ作り」　講師：国立大洲青少年交流の家　職員

大学生は小学生にうちわ作りを指導する上で、どのような点に気を付けて指導をするべきかを考えながら作成をした。小学生が作成の過程でつまずきやすいポイントを想定し、つまずいた場合の手立てや声掛けなどについても協議をした。

「普通救命講習Ⅰ」　講師：大洲地区広域消防事務組合消防署　署員

心肺蘇生法やＡＥＤの使用方法、怪我などの応急処置、熱中症への対策等について学んだ。参加者は、緊急時に即座に対応できるように真剣に取り組んでいた。また、今回の教育事業中に起こり得る場面を想定し、その対応方法についても講師に質問をすることができた。

「野外炊飯（鯛めし・芋炊き）」　講師：国立大洲青少年交流の家　職員

愛媛県の郷土料理である鯛めしと芋炊きの歴史に触れ、小学生にどのように伝えるかを考えた。また、安全管理面でどのような事前準備や指示をすればよいかも協議をした。初めて野外炊飯を行う学生が多かったが、手際よくおいしい鯛めしと芋炊きを作ることができた。

「ちょうちん行列」　講師：国立大洲青少年交流の家　職員

各班２つずつ提灯を持ち、星空を眺めたり、蝋燭の歴史について学んだりしながら所内を歩いた。大学生は、小学生が夜道を安全に歩くために、どのようなルール設定をすればよいか考えた。外灯を消して蝋燭の灯りだけで歩きながら趣も感じていた。

〈第２日目〉８月 24 日（日）

「歴史体験活動（土居家見学）」　講師：大本　敬久　氏（愛媛大学地域協働推進機構特定准教授）

西予市野村町惣川にある「土居家」や惣川地区の歴史について、講師の大本氏から資料による説明や館内見学を通して学んだ。土居家は四国最大級の規模の茅葺き木造民家であり、大学生はその歴史と壮大さに感動をしていた。また、参加者みんなで雑魚寝をしながら、畳の心地よさを体験した。さらに、土居家について学んだことをどのように工夫をし、小学生に分かりやすく伝えるかを考えた。

「昔遊び体験」　講師：国立大洲青少年交流の家　職員

土居家の雰囲気を感じながら昔遊びを体験した。各エリアに分かれて自分の興味ある遊びや、初めて経験する昔遊びなど、楽しみながら体験をしていた。また、小学生が来たときにどのような場を設定し、小学生に体験させるかを考えた。

「川遊び体験」　講師：国立大洲青少年交流の家　職員

河原で小学生が安全に楽しく活動できる遊びを考えた。この日は、一時的に大雨に見舞われ、水量が増し、川が混濁していた。天候によって川の様子が変わることについて身をもって体感した。また、フィールド内の危険箇所についても共有することで、小学生が安全に活動できるように計画を立てた。

「子どもむかし生活体験村の準備」

本事業に対する子供や保護者、大学生の思いを再確認し、「村の掟」を作成した。昨年参加したリーダーが中心となり話合いを行い、それぞれの思いを入れつつ、誰もが分かりやすい掟を作成することができた。時間はかかったが、思いを一つにすることの大切さに気づいたようだ。

〈第３日目〉８月 25 日（月）

「大洲史跡巡り（如法寺）」　講師：木之本義道　氏（瑞龍寺住職）

如法寺の歴史について、講師の木之本和尚に説明をしてもらった。室町時代から今に伝わる歴史ある寺院で、過去に何度も再建されて今に至っている。その歴史の深さを肌で感じることができた。さらに、国指定重要文化財である仏殿で座禅体験をしたり、庭園が見える和室でお茶体験を行ったりした。

「子どもむかし生活体験村の準備」

各プログラム担当で話し合いながら準備を進めた。その際、小学生の目線に立って考えたり、安全面についてリスクを想定したりするなど、意欲的に準備に取り組む姿が見られた。定期的に他グループとも意見交換をすることで、よりよいプログラムとなっていった。

〈第４日〉８月 26 日（火）

「『子どもむかし生活体験村』開村式・アイスブレイク」

大学生が開村式やアイスブレイクの進行を行った。開村式では、小学生の緊張をほぐすために、椅子だけの会場設営にし、リーダーや仲間との距離を近くした。アイスブレイクでは、担当以外の大学生リーダーも積極的に小学生と関わって緊張をほぐしたことで、小学生の笑顔がたくさん見られた。

「班のきまり・係決め・きまり発表」

各班の目標を立てた。大学生は小学生から思いや言葉を聞き、班全員の思いを画用紙にまとめた。また、きまり発表では、各班が堂々と班名やきまりを発表することができた。発表前には、大学生が小学生に発表のポイントをアドバイスしたり、発表時に優しく見守ったりする姿が見られた。

「うちわ・竹とんぼ作り」

大学生がうちわの作り方について小学生に指導した。作成の際、場所の工夫が見られ、会場全体をうまく活用できていた。また、班の仲間で協力してうちわ作りを進める過程で話も弾み、時間とともに打ち解けていく様子が見られた。特に、作業が難しい過程では、大学生が小学生に寄り添いながら作業を進める姿は、見ていて微笑ましかった。

「野外炊飯（鯛めし・芋炊き）」

野外炊飯場を利用して、鯛めしと芋炊き作りを行った。郷土料理について楽しくクイズを行い、小学生の興味関心をうまく引き出すことができていた。また、大学生は事前に学んだことを生かし、小学生が安全かつスムーズに作業ができるように、指示や声掛けを行っていた。特に、包丁や火の扱いについては十分に事前指導を行っていた。おいしい鯛めしや芋炊きを作るため、小学生と大学生が積極的にコミュニケーションを取り、調理に励んでいた。

「ちょうちん行列」

各班２つずつ提灯を持ち、星空を眺めたり、初日の活動について話したりしながら夜道を歩いた。小学生は夜道を歩くという経験がほとんどなく、不安な気持ちがありつつも楽しみながら歩いていた。また、大学生が小学生の安全を気にしつつ歩く姿も見られ全員が安全に活動することができた。

〈第５日〉８月 27 日（水）

「土居家見学」

土居家見学では、各班に分かれ、大学生が案内を行った。畳で寝転がる小学生を微笑ましく見る大学生の姿が印象的だった。小学生たちは、昔の人々の生活の様子を想像しながら、大学生の説明をしっかりと聞き、土居家についての理解を深めることができた。

「昔遊び体験」

土居家では、昔遊びのコーナーをいくつかの場所に分け、ローテーションをしながら、全員が一度は体験できる機会を設けるようにした。時間の関係や夢中になって「もう少しやりたい！」という声が飛び交うなど、終始和やかな雰囲気で活動できていた。また、どの活動エリアも大学生が小学生に教えたり、逆に教えてもらったりする場面がたくさん見られた。

「川遊び体験」

準備段階から安全管理について入念に話し合いを行っていたこともあり、小学生への指導も丁寧に伝えることができ、安全に活動を実施することができた。活動場所や、小学生への体調面を考慮するなど細かく役割分担していたこともあり、小学生は大学生と全力で楽しんでいた。

〈第６日〉８月 28 日（木）

「大洲史跡巡り（如法寺）」

２グループに分かれ、お茶体験と座禅体験を行った。お茶体験では、大学生がお茶を点て、小学生に振る舞った。座禅体験では、仏殿の静寂の中、姿勢を正して座り、呼吸を整え、自己と向き合う貴重な時間を体験することができた。また、大学生が案内役となり小学生に分かりやすく、境内や庭園を丁寧に説明した。

「思い出発表」

担当の大学生リーダーが司会を務め、思い出発表を行った。小学生が各班で思い出を発表し、他の班の小学生や大学生、保護者が発表を聞いた。短時間での準備ではあったが、どの班も堂々と発表することができた。また、大学生からも小学生一人一人に向けてメッセージを送る場面があり、小学生の照れながらもどこか誇らしげな表情をしているのが印象的であった。

「閉村式（子どもむかし生活体験村）」

村長（所長）が挨拶した後、大学生が閉村式を締めくくろうとした時、小学生から大学生へのサプライズが行われた。前日の夜に大学生がリフレクションを行っている間に練習した、歌と感謝の色紙が大学生に贈られた。大学生も小学生も涙を流し合い、３日間の共同生活が締めくくられた。

１２　参加者の声（事後アンケートの結果）

【大学生】　＊満足：94%　＊やや満足：6%　＊やや不満：0%　＊不満：0%

○　とても楽しかった。前に出ることが得意じゃないので不安もあったが、たくさん成長できた。

○　他の大学生と関わって一緒に企画を考えたり、子供たちと一緒に活動したりして新しい仲間や絆が生まれたと感じた。

○　とても充実した６日間だった。大学生同士で活動した３日間と、子供たちと過ごした３日間では、それぞれ違った楽しさや困難があり、とてもよい経験になった。

【小学生】　＊満足 100%　＊やや満足：0%　＊やや不満：0%　＊不満：0%

○　思い切って、何かをできるようになった。(4 年生・男子)

○　最初は緊張したけど、大学生や職員さんがたくさん話してくれて優しかった。(6 年生・女子)

○　指示がなくても自分から動けるようになった。(5 年生・男子)

１３　事業の成果

多くの過年度経験者が運営に携わったことにより、スムーズに事業を進められた。また、如法寺の見学の時間を十分にとることで、普段見ることができない、境内の様子やお茶・座禅体験が充実し、この事業のねらいである「先人の知恵と自然体験を融合した体験活動」を存分に体験することができた。また、短い準備時間にも関わらず、各プログラムでは、大学生が小学生に分かりやすく、楽しく伝えることができていた。これは、大学生が主体的に準備や運営に携わったことによるのではないかと考える。アンケートの結果からも、小学生も大学生も多くの学びを得ることができ、心に残るひと夏の思い出になった事業といえる。

１４　事業の課題

昨年度に比べて十分なゆとりをもって行った事業であったが、夕食後のタイムスケジュールが過密になり、参加者の中には睡眠時間の確保が難しく感じた方もいた。特に大学生は６日間という長期となる事業なので、夕食後もゆとりあるプログラムを検討する必要がある。また、夏季に行う教育事業のため、熱中症対策をさらに万全にし、体調不良者を出さないプログラム設定に努めたい。

（担当：企画指導専門職　都合　美帆）